

今回、第4回「『大学は美味しい!!』フェア」にあたって、東日本大震災で被害を受けた方々に何ができるかを考えました。

単純なお金の寄付に始まり、スローガンやメッセージを配したTシャツやグッズの一部を義援金とするものなど、また、炊き出しやコンサートなどのボランティアにも多くの方が携わっておられます。

このイベントは「大学」を中心にしたものではありませんが、もう一方の中心に「食」があります。私達が被災地のことを考えるならば、やはり「食」を通じて行うべきだろうと思ったのです。

「被災地のために何かしたい……」。多くの方々が、そう考えておられるはずです。しかしながら現実には、仕事をはじめとするいろいろな事情で、実行に移せない方々もまた多くいらっしゃるはずなのです。

では、どうすれば良いのか？

私達の結論は、「解決を見るその日まで、“他人事”にせず、“自分自身の問題”でもあることを忘れないJでした。

そこで、このイベントの前・実行委員長でもあったM氏が、個人的な活動として作っていた「東日本大震災のための箸」を広めることにしました。その思いとレギュレーションを踏襲し、今回のイベント用に、被災地でもある宮城県・登米市の「もくもくハウス」に製作を依頼したのです。（放射能は検査済みです）

この箸には、「がんばれ」とか「祈ろう」など、言葉として何かのメッセージが書かれているわけではありません。単純な線で“あの時間”が刻まれているだけです。

また、このデザインはコピー・フリーです。私どもに一報いただき、加えてここに書かれたメッセージさえ同梱していただければ、同じ箸（箸でなくても、鉛筆とかでもかまいません）を作ってくださいでも、いっこうにかまいません。むしろ、多少、レギュレーションが違ったり、ミリ数が間違っている場合でも、ご自分で使われる箸に同じような線を引き、使っていただくような状況になることを願っております。

「改めて“食”の大切さを思い、食べ物を残さないようにする」「被災地の食べ物を消費するのが貢献につながる」「被災地には、まだまだ大変な状況の人がいる」。箸を見て、何をどう思い、どう考えていただくかは全く自由です。ただ今回のことを風化させず、常時ではなくても、時々でもいいから、ずっと忘れないでいる……これこそが、地味ではあっても大きな力になると信じています。

地震のことも、そこで被害にあわれた方々についても、原子力についても、絶対的に正しい答えは見つからなくても、自分のこととして考え続けるという姿勢こそが、直接的な被災にあわなかった者の義務だと考えます。

『大学は美味しい!!』プロジェクト実行委員長 久保光貴  
連絡先：電話 03 - 5459 - 9788

お箸の持つ意味

「食」を通じて「心の義援」を！

東日本大震災被災地に対して、義援金以外の方法で何かができないかを考え、この箸を作りました。被災を「他人事」ではなく「自分自身のこと」でもあると認識するために、

- ① 逃げない。
- ② 忘れない（思いだす）。
- ③ 一緒に悩む。

の思いをデザインに込めています。



使っている3色は、それぞれ「茶」大地、「青」海、「黄」人災を表わし、その本数は、3本・1本・1本で「3月11日」を示しています。そして、線と線の間隔は「2011年」と「14分」（地震の起きた時間）に基づきました。

食事の時、年に何度かでもいいので、「食の安全や大切さ」「食事を作るためのエネルギー」や、震災後も続いている問題について考え、それと直に接している方々が、今も大勢いらっしゃることを思い出すきっかけになればと切に願います。



この箸は、東日本大震災の被災地である宮城県・南三陸町の隣りに位置する登米市『もくもくハウス』で製造し、兵左衛門が協力したものです。



品質表示

箸
素地…アカマツ<宮城県産>
塗装…ウレタン

製造元

津山木工芸品事業協同組合  
宮城県登米市津山町横山字細屋 26-1  
<http://moku2.biz/>

製造協力

株式会社兵左衛門    
<http://www.hyozaemon.co.jp> 台紙 外袋

第4回『大学は美味しい!!』フェアのマーク



お箸の実物

